

## うんとこしょー共に生きる介護人養成講座に関して

生活クラブ生協越谷ブロック地域協議会 清水 泰代

生活クラブは牛乳の共同購入から始まった食の生協です。生協とは株式会社のように一部の人の利潤を追求するのではなく、私たちの生活要求を基盤に自発的に力を合わせて築いていく非営利の相互扶助組織です。安心して暮らし続ける為に食、環境、福祉と幅広い活動をしています。

生活クラブの活動の拠点である越谷生活館を地域の有効な拠点となるよう、近隣団体との連携を取れないか？との思いから「NPO 法人障害者の職場参加をすすめる会」と出会い交流が始まりました。「障害のある人たちと何か一緒に働けないか？」「でも付き合ったことがないからどう対応したらいいかわからない」それではまず「一緒に歩くことから始めよう」と“うんとこしょ”を開催することになった。障害者と地域の人が触れ合う場を設ける。その中に全身性派遣事業の座学を含め 2017 年度を終える時に、多くの介護人が登録し、さらに障害者のケアに実際入れるようになっていくことを目指します。偶数月に多くの人に参加できるイベント 4 月にお花見、6 月に花田苑、奇数月の平日に生活館を活用した企画、5 月に座学Ⅰ「世界にひとつだけの介護人制度」の 3 回が終了した。毎回新しい顔が数人ずつ増えているがまだ参加者が少ない。

私は生活クラブ地域協議会の一員として参加しているが、子供に障害があり現在支援学校の高等部 3 年で就活中です。障害者の就労は厳しい現状があり、ほぼ 9 割が福祉的就労です。障害者の就労が進まない要因は小さい時から分けられて育ち特別な支援や便利な福祉サービスを使えば使うほど地域とのつながりが希薄になってしまうからではないかと感じている。専門知識や資格は関係なく同じ時間を共にすることで「かかわり方がわからない」の不安は少しずつなくなります。今回の介護人養成講座は出会いの場としてよい機会になるのではないかと期待しています。

## 生活クラブ生協 越谷ブロック地域協議会とは

市民ネットワーク（政治団体）、ワーカーズ・コレクティブ、エコロ助成団体、地域団体（元自主活動グループ・<sup>れん</sup>連）との連携を図り、共通の課題解決に取り組みます。さらに地域の活動団体の参加呼びかけを検討します。

（以下、2017年3月ブロック大会議案書より）

くらぶメゾン越谷が地域の身近な拠点となるよう、地域の現状を知ることから始めようと、『NPO法人障害者の職場参加をすすめる会』との交流が始まりました。だれもが安心して暮らせる地域づくりを市民ネットワーク、ワーカーズ・コレクティブ、地域団体、CCS（コミュニティーケアクラブ埼玉）、連と連携し共通の課題解決に取り組みます。

- ① でもくら（代理人学習会）を開催します。地域の現状から様々な問題に気づくことから、“地域で安心して暮らすための支え合える仕組み”の実現を考えるきっかけとします。
- ② 『くらぶメゾン越谷』を地域の有効な拠点となるよう近隣団体との連携を深めます。
- ③ 大気調査隊（連）と連携し地域の環境への影響をチェックできる機能を模索し行政への働きかけを検討します。
- ④ 越谷市へ予算要望提出を視野に入れ、より多くの市民参加による、越谷市の現状を把握し課題の洗い出し、改善に向けての討議を行います。他地域における行政の課題解決へとつなげていきます。
- ⑤ 草加生活館・越谷生活館の設置（地域他団体との連携をはかる）
- ⑥ 各行政区ごとの地域協議会開催を目指し、地域の活動団体の参加を呼びかけます。
- ⑦ 就労支援を継続します。
- ⑧ 吉川市にある障害者就労支援事業所「ひだまり」から2015年9月より毎週火曜日9時から12時まで職場実習を受け入れています。

## 生活クラブ（埼玉）の越谷ブロックの範囲等

5市1町： 草加市・八潮市・三郷市・越谷市・吉川市・松伏町

現在は、越谷市蒲生にある越谷センターより、5市1町に配送がなされている。

また、各支部（草加支部 三郷八潮支部 越谷いちご支部 越谷くわい支部 吉川松伏支部の5つの支部）に分かれて組合員活動がなされており、5つの支部が集まった越谷ブロックとしてのブロック大会において方針が決定され、それに基づいて、日々の活動運営がなされている。

## 越谷ブロック地域協議会のあゆみ

志を同じくする 地域社会の課題と共に解決するという個人・団体共に活動していくというスタンス地域協議会を通して、生み出された団体・事業等

### ○ 生活クラブ生協埼玉としての初めての働きにくさを抱えた人の就労体験スタート

吉川松伏支部組合員と日常の連携（マイバックの会）→エコロ助成の情報→エコロ助成を受け、マイバック（公共施設の廃棄傘の布で枚バック作成の工業用ミシン購入助成）→団体の地域協議会参加への呼びかけ→地域協議会参加（生活クラブ生協組合員活動と触れる）→展示即売会地域団体として参加→就労体験へ

○2015年度 「NPO なまずの里福祉会 多機能型事業所ひだまり（就労以降支援・就労継続型支援B型）」の生活クラブ生協越谷センターにおいての就労体験スタート（2015・2016年・2017年度よりは、週2日 AMのみ）

## ○ 越谷市民ネットワークと生活クラブのコラボで生みだされた「よしかわ市民ネットワーク」(政治団体)

2014・2015・2016年度とネットと生活クラブ組合員の代理人学習会を連続で開催していく中で、自分たちの地域の課題を解決するには、自分達の声を直接、議会に届けるための代理人が欲しいとなり、吉川市で、「よしかわ市民ネットワーク」が2015年9月に結成され、2016年1月末の吉川市議会議員選挙にて、初の代理人(岩田京子):市議会議員誕生。現在に至る。

## ○連 「東埼玉5市1町大気調査隊」結成(市民団体 任意団体)

自分たちの吸っている空気は選べない。自分たちが廃棄するもの(ゴミ)によって、未来の世代に負の財産をできるだけ残さないように、松葉による大気調査を毎年実施、報告会をするとともに、ファイバーリサイクル等、自分たちの生活の仕方(ゴミの出し方)自体を見つめ直すことを呼びかけている(構成メンバー)5市1町の組合員

2015・2016と松葉調査実施。もともとは、生活クラブ生協 越谷ブロック(草加・越谷・三郷・八潮・吉川・松伏)の共通の課題として、第一工場および第2清掃工場 建設の必要はない、ごみは減っているという建設反対署名の呼びかけ協力より、始まって行った。

このようにして、

**生活クラブは、会員の生活向上を目指していく時、地域の人・団体と共に課題を解決していく事を通じて以外、それを達成することが出来ないと考えています。**

そのため、地域協議会を主催し、志を同じくする団体。人と出会い地域課題を解決していくことを目指します。

また、埼玉単協は、組合員の活動の拠点としての場を多く創出してきました。

それは、物流センター移転に伴う建物を組合員活動の拠点としてきた「生活館」、「地区館」、「くらぶルーム」、共同購入班の大型の「組」、「メゾン構想」、それぞれの構想は時代の流れ・時代の要求に沿って作られ、改変され、現在に引き継がれています。

「うんとこしょ」が、生活クラブにとっては、越谷センターの跡地を組合員活動の拠点に改修した「越谷生活館」をさらに、その1階部分を「くらぶメゾン越谷」に改修し、より地域の課題解決のために、地域の人・団体と生活クラブの人が出会う場にしてきたいとしました。

くらぶメゾンの一部に「ふら〜り」と名付けられたスペースで、そのことを実現すべく作られたスペースでありながら、現実には、活用されていない実態がありました。

ここを地域に開かれた場所として活用していきたいと思っていた際に、地域協議会の参加団体として、NPO 障害者の職場参加を進める会に出会いました。

この「くらぶメゾン越谷のふら〜り」を活用して、共に出来ることとして『介護人養成講座うんとこしょ!』を2017年度に開催することが出来ています。

ひとつひとつ、日常の中で、出会っていくことを通して、お互いをしりお互いに出来ることをしていったらすてきなあと感じています。

## 生活クラブ福祉・たすけあい8原則

### 前文

日本では世界で類を見ない速度で少子高齢化が進んでいます。ゆたかな人の関係に支えられた、希望もてる、持続可能な地域づくりが急務の課題です。私たち生活クラブの福祉活動は、利用者、家族、地域市民、事業者、働く人など、多様な利害関係者（ステークホルダー）が相互に協力しながら展開してきました。誰もが当事者として、自己決定にもとづいて生きるしくみを積み重ねてきたことが誇るべき特長です。

この強みを各地の生活クラブ、運動グループ、提携生産者が共有し、その地域に必要な機能を描き、「福祉の自給ネットワークづくり」をめざして、「生活クラブ福祉・たすけあい8原則」を定めます。

#### 1：多様性

一人ひとりがちがいを認めあいながら、対等につながり、よろこびを分かち合える社会をめざします。

#### 2：尊厳の尊重

生まれた時から最期の一日まで、誰もがその人らしく安心して暮らせる地域をつくります。

#### 3：参加型社会

子育て、介護、社会的孤立を地域全体の課題と考え、お互いにたすけあう参加型のしくみをつくります。

#### 4：働きがいのある人間らしい仕事

生活と仕事が調和し、社会をゆたかにする多様な働き方・働く場をつくります。

#### 5：居場所づくり・役割づくり

あらゆる人が、心おだやかに楽しく過ごせる居場所づくり・役割づくりをすすめます。

#### 6：子育て支援

子どもが笑顔で暮らせるように、地域全体で、子ども支援・親支援に取り組みます。

#### 7：介護支援

介護する人・受ける人がどちらも、安心して毎日を過ごせるようサポートします。

#### 8：社会的孤立への支援

貧困と孤立を見過ごさず、寄り添い、伴走することで自立を後押しします。

### 35. 生活クラブ行動原則

## 10のThink & Act

#### 1: 食の安全にこだわります。

生産から廃棄まですべての過程において、添加物や残留農薬をできる限り減らすなど、安全性にこだわります。また、徹底した放射能検査を実施します。健康や環境に与える影響についての情報を積極的に公開します。

#### 2: 健康的な食べ方を大切にします。

感謝とともに自然のいのちをきちんといただき、明日への元気につなげるために。食材の栄養や調理、食べ方についての知識や技術をみんなで共有し、食のアイデアを出しあいます。

#### 3: 国内自給力アップをめざします。

原料や飼料の国産割合を高めることにより“生命の産業”である「農業」「漁業」「畜産」を振興します。消費者と生産者が一体となって、国内自給力の向上を図り、食の自立・健康増進・地域環境の保全に取り組みます。

#### 4: 遺伝子組み換え作物を認めません。

企業による食糧独占を招き、また生物の多様性をも破壊する遺伝子組み換え作物を認めません。食品・飼料・添加物においても取り扱いません。やむを得ず使用する場合は情報を公開します。

#### 5: 有害物質ゼロをめざします。

健康や環境をおびやかす有害物質の使用・放出を減らします。有害物質ゼロへ向けて、継続的に活動していきます。

#### 6: 自然資源を大切に使います。

水・土壌・森林といった再生可能な自然資源を持続的なカタチで使用します。再生できない自然資源については、次世代につなげていけるよう、節減に取り組みます。

#### 7: ごみの削減に取り組みます。

省資源・リユース・リサイクルを通じて、ごみの削減に取り組みます。また、廃棄物の処分についても、より安全で信頼できる方法を選びます。

#### 8: 原発のない社会をめざします。

長期的な視点を持ち、エネルギーのムダ使いを積極的に減らします。消費者と生産者がチカラをあわせ、安全で持続可能なエネルギーの生産・流通に取り組みます。

#### 9: おたがいにたすけあう社会をめざします。

地域の中で安心して子育てや介護ができる仕組みづくりに取り組みます。おたがいにたすけあい、学びあい、支えあう活動をひろげます。

#### 10: 自分たちで決めて、自分たちで実行します。

生活クラブは一人ひとりが主役です。組合員に関わる情報は大きなことから小さなことまですべて公開・共有します。その情報をもとに、自分たち自身で考え、決め、実行します。